



ニュースレター

SDM NEWS



「宇宙インフラ活用人材育成のための大学連携国際教育プログラム」第1回セミナー参加者による集合写真

5

2013年 月号

行事予定

2013年6月9日(日) 13:00 ~ 15:30

慶應SDM公開講座 白熱対談
「公共哲学×システムデザイン・マネジメント 新しい世界の作り方・見え方」

@日吉キャンパス協生館 C3S10教室
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/06/09-183036.html>

要事前登録 無料

2013年6月19日(水) 19:00-20:30

慶應SDM特別講演会
生活の木の「これまで」と「これから」

@日吉キャンパス独立館 DB201
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/06/19-123902.html>

要事前登録 無料

2013年7月1日(月)19:30-21:30

有人潜水調査船「しんかい6500」を搭載した
支援母船「よこすか」とのリアルタイム
交信イベント

@日吉キャンパス協生館
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/05/25-100539.html>

要事前登録 無料

2013年9月8日(日) ~ 9月11日(水)
Asia-Pacific Council on Systems
Engineering Conference
(APCOSEC 2013)

@日吉キャンパス協生館
<http://www.apcosec2013.org/>

要事前登録 有料

2013年10月26日(土)

SDM研究科5周年イベント
(特別講演会ほか)

@日吉キャンパス協生館
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/10/26-122508.html>

要事前登録 無料

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ja/event/201305/201305_index.html

通算54号 2013年5月発行



専任教員からのメッセージ

全ライフサイクルをカバーする 統合的アプローチ



慶應SDMは、その設立当初からシステムズエンジニアリングを基盤とするシステムズ・アプローチを中心としてきました。2012年5月号のメッセージでは、システムズ・アプローチを基盤とした真の全体統合型学問として、技術システムから社会システムに至るまで統一的に扱うことができるSDM学の実現について述べました。これは、システムズ・アプローチを適用する範囲が面として広がっていることを意味します。実際、2013年1月からスタートした慶應システムズスクールには毎回多様な企業や大学、機関から多くの人に参加していただいております。一方で、システムズ・アプローチの適用フェーズの拡大についても実感しています。つまり、イノベーションの実現に向けてシステム思考とデザイン思考を組み合わせた独自の手法をライフサイクルのはじめから適用することでより確実にイノベティブなソリューションを実現していくための方法論が確立してきました。今年度は、ぜひこの統合的なアプローチの適用成果をだしていきたいと考えております。

SDM研究科准教授 白坂成功

最近のニュース

1 研究科公開講座および研究科説明会 開催報告

2013年4月17日(水) 18:30 ~ 20:30に、三田キャンパスにおいて公開講座「協創とイノベーションの未来」および研究科説明会が行われた。

公開講座の演者は前野隆司SDM研究科委員長・教授。協創とは何か、イノベーションとは何か、という定義の後、歴史的スケールから、これからのイノベーションのあり方について講演した。また、前野教授が行っているシステム幸福学の研究成果と協創・イノベーションの関連深さについても述べた。

研究科説明会においても多くの社会人・大学生が様々な質問を行っており大盛況であった。

TOPIC 2 マネジメントデザインセンターが「PMP®資格受験対策講座」を開催



PMP®合格を目指して受講する参加者たち

2011年からスタートした「PMP®資格受験対策講座」も通算4回目を迎えた。これまで学生を対象に学内で実施してきたのを、今回からは一般の受講者も広く募集して行われた。主催もSDM研究所マネジメントデザインセンターとなり、PMI日本支部の後援と、富士ゼロックス総合教育研究所の協力によって開催された。講師は今回もプロのインストラクターで活躍されている大塚有希子氏。

PMP®とは、米国に本部を置く世界最大のプロジェクトマネジメント協会PMIが認定す

る資格であるが、その知識体系となっているPMBOK®の改訂があったばかりで、従来の第4版での受験期限が7月末に迫っている。こうした背景もあって駆け込み受験を目指す19名が参加、3月の土曜日4回の講義と4月の模試1回、合計35時間にわたって充実した講座が行われた。もちろん受験希望者のみならずPMBOK®をもっと深く理解したい、学び直したいという受講者も来ていた。本講座からは、これまで多くのPMP®合格者を輩出しており、今回も多数の合格者を期待している。

TOPIC 3 2013年度入学式および入学合宿 報告

2013年4月4日に平成25年度大学院入学式が行われた。今年度も、過半数が社会人、理系・文系が約半数ずつ、海外からの留学生もおり、多様な顔ぶれがそろった。6年目になる今年度

も、新しい学問の教育・研究を担ってゆきたい。

また、4月12日から14日には、千葉県長生郡長柄町にある「生命の森」にて入学合宿を開催した。慶應SDMの中心科目の一つであるデザ

インプロジェクトの概要を体験したり、福澤学の講義、修了者の生の声を聞く等、充実した内容であった。学生は、寝不足になりながら課題をこなしたり様々なことを語り合っていた。

TOPIC 4 第4回慶應システムズスクール システムアーキテクティングワークショップ ～あらゆるものをアーキテクチャで捉え、あらゆるもののアーキテクチャを創造する～



参加者によるアーキテクティング結果発表の様子

慶應システムズスクールとして第4回目となるワークショップが2013年4月21日(日) 10:00～13:00に、日吉キャンパス来往舎にて開催された。

悪天候の中、約50名もの方々の参加を経て、白坂成功准教授によるアーキテクティングワークショップ「あらゆるものをアーキテクチャ

で捉え、あらゆるもののアーキテクチャを創造する」が行われた。システム開発経験のない大学学部生や技術的なバックグラウンドのない社会人の方々にも理解してもらえよう、日常的なものを対象として、「あらゆるものをアーキテクチャとして捉える」、「あらゆるもののアーキテクチャを創造する」とはどういうことである

かを学んでもらうことができた。システム開発経験のある方々にも、アーキテクチャの重要性を実感してもらっている有意義なワークショップであった。

なお、次回日時は未定であるが、近日中に第5回目慶應システムズスクールをご案内する予定である。



白坂准教授による講義



グループワークによるアーキテクティングの様子

TOPIC 5 元オランダ王国首相ヤン・ピーター・バルケネンデ教授 公開講演会



講義中のヤン・ピーター・バルケネンデ教授

2013年4月25日(木)、元オランダ王国首相ヤン・ピーター・バルケネンデ教授をお迎えして、オランダ王国大使館の協力のもと、SDM研究科主催の特別講演会を開催した。

当日、慶應義塾大学三田キャンパス演説館の会場は満席になり、Three Arrows Policy for Entrepreneurship, Innovation and Sustainability (起業、革新、持続力への産官学「三本の矢」)と題した講演は、聴講者にとつ

て興味深かったようで、皆熱心に耳を傾け、講演後の質疑応答も活発に行われた。

バルケネンデ教授は、4月下旬の来日にあわせて、その間、2009年に名誉博士の称号授与を受けた慶應義塾大学にも立ち寄り、講演会を開催する運びとなった。

関連記事(名誉博士号授与について)：

▶ <http://www.keio.ac.jp/ja/news/2009/kr7a4300001zuy3.html>



聴衆の様子

TOPIC 6 「宙のがっこう」－星出宇宙飛行士による公開講座－



星出宇宙飛行士による解説の様子

SDM研究科は、国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在中の星出彰彦宇宙飛行士(塾員)とのリアルタイム交信を2012年11月6日に実施したが、4月16日には、その星出宇宙飛行士を日吉キャンパス藤原記念ホールにお迎えし、一般社団法人Think the Earthとの共催で公開

講座を実施した。公開講座では、日比谷孟俊SDM研究所顧問のあいさつの後、神武直彦准教授による星出宇宙飛行士の学生時代やISS長期滞在中の訓練などについての紹介がなされ、その後、星出宇宙飛行士が登壇し、ISS長期滞在中のミッションの解説や参加者との質疑応答を行った。1時間以上におよぶ質疑応答では、参加者からの数多くの質問がなされ、その全ての質問に対して星出宇宙飛行士は様々なエピソードを交え、解説を行った。例えば「ISSの外に出て行う船外活動で死を意識するようなことはありませんでしたか?」という質問に対しては「膨大な訓練による自信と、船外活動を支えてくれる多くの仲間への信頼があるので死を意識するようなことは一度もありませんでした。」というような回答がなされた。このイベン

トには300名程度の来場者があり、Ustreamでも配信がなされ、多くの方がリアルタイムでイベントを視聴した。

「宙のがっこう」－星出宇宙飛行士による公開講座－Ustreamアーカイブ：

▶ <http://www.ustream.tv/recorded/31537075>



多くの来場者および星出彰彦宇宙飛行士と神武直彦准教授

TOPIC 7 「宇宙インフラ活用人材育成のための大学連携国際教育プログラム」第1回セミナー実施



第1回G-SPASEセミナーの様子

SDM研究科は、東京大学空間情報科学研究センターおよび東京海洋大学海洋工学部と連携し、文部科学省の支援を受け「宇宙インフラ

活用人材育成のための大学連携国際教育プログラム(G-SPASE)」を平成25年2月より開始しているが、4月28日には日吉キャンパス協生館にて第1回セミナーを実施した。

G-SPASEの特徴は、3大学が連携して教育を行うことで、宇宙工学、GIS、ビッグデータ、システムデザイン、マネジメントといった宇宙インフラやネットワークインフラの開発や運用、サービスの実現に必要なひとつひとつの知識とスキルを提供する点であり、様々な企業や政府機関との連携によって関連する国内外のプロジェクトに学生がインターンとして参加して経験を積むことができる点である。第1回セミナーでは、プログラム

の目的、概要の説明、システムデザインについての講義が行われた。その後、インターンシップが可能なプロジェクトについて紹介がなされた。セミナーには、3大学から合計50名程度の学生が参加し、学生同士の交流も活発に行われた。

第2回セミナーは東京大学駒場キャンパスで5月26日(日)に行う予定である。

日本経済新聞5月6日掲載記事：

「日本発・宇宙インフラ事業をアジアに、14兆円市場にらみ産学官が連携」

▶ http://www.nikkei.com/news/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXBZ054573850R00C13A500000&uah=DF151220092010

ラボ・センター紹介

インテリジェンス・システム・ラボ (Intelligence System Laboratory (I.S. Lab.))

※社会中枢システムラボから名称を変更しました



担当教員: 手嶋龍一教授

NHK のワシントン支局長などを歴任。外交専門家にしてインテリジェンス研究の第一人者。また情報戦を扱うインテリジェンス小説の書き手としても知られる。『ウルトラ・ダラー』『スギハラ・サバイバル』『たそがれゆく日米同盟』『外交敗戦』等、多くの著作がある。



研究室のメンバー

1 研究室の概要

インテリジェンス・システム(Intelligence System) 研究室では、手嶋龍一教授を中心に現代の複雑な社会システムをインテリジェンスの視点から解き明かす研究に取り組んでいる。研究室所属の学生は全員が社会人経験者。各自が社会の一線で重要な責務を担っており、SDMでもとりわけ多様な分野から多彩な人材が集まっている。会社経営者、大手企業役員、中央

官庁出身者、証券マン出身の起業家、創業研究者、医師、歯科医など各々の経歴はバラエティーに富んでいる。それを反映して研究テーマも医療・医薬分野から再生エネルギー分野までじつに幅広い。I.S.研究室では比較政治制度システム研究室(ヒジノ准教授)とも連携して多様な社会システム研究に取り組んでいる。

2 I.S. 研—具体的な活動と特徴

当研究室では毎週土曜日にゼミを実施しているが、日吉だけでなく三田でも開催しており、研究室OBの参加も多い。週中にも講義の後に日吉でミーティングを持ち、メンバーの連携をはかるべく各自の研究テーマをめぐって活発な議論が交わされている。定期的に鎌倉合宿なども行って修士論文の仕上げに向けて研鑽

をつんでいる。またSDMの講義を受け持ち、知事、外務次官、駐米大使、内閣審議官などを務める招聘教授を懇談会にお招きして現下の情勢について率直な意見交換も行っている。招聘教授やOBとのつながりを大切にしながら、自由闊達な雰囲気の中で研究を進めていることがI.S.研究室の特筆すべき点である。

3 今後の活動など

新年度は、ゼミのOBや講義を担当する講師陣の参加を呼びかけて、慶應義塾の鶴岡キャンパスや大阪シティキャンパスでも研究会を開催して、幅広いヒューマ

ン・ネットワークを築いていきたい。また、修士論文発表会や中間発表会の準備にも入念に対応し、SDM 研究所のラボとも協力して更なる前進を図っていきたい。

スマートシステムデザインラボ

(Smart System Design Laboratory)

<http://www.ssdlab.sdm.keio.ac.jp>

担当教員: 神武直彦准教授

1 研究アプローチ

スマートシステムデザインラボ(SSD Lab.) は、大規模防災、地域活性、プロセス改善、イノベーションなど様々なテーマを扱っています。共通することは、その対象をシステムと捉え、システムのステイクホルダを明らかにし、

真の問題とその要因を明らかにし、そこから社会的な価値の創出を目指してソリューションをデザインし、その有効性を評価するというアプローチを取り、そのプロセスや手法、システムの研究を行う点です。

2 研究事例

様々なバックグラウンドを持った学生や研究員がそれぞれの興味に応じて研究を進め、また、それぞれで協働し、横浜市や二子玉川、バンコクといっ

た国内外の具体的な地域と連携してその成果を適用し、具体的な改善やサービス創出を行っています。

- ▶ 地域をブランド化するシステムのデザイン
- ▶ ソーシャルセンターデザインプロセスの構築
- ▶ 分散型ワークスタイルにおける創造的活動
～遠隔ファシリテーションモデルの構築～
- ▶ グラフィックファシリテーションのためのデザインツール
- ▶ ビッグデータやオープンデータを用いた地域活性

- ▶ 国内製薬企業の継続的売上成長のための医薬品R&D投資戦略の設計手法
- ▶ 屋内測位技術を用いた弱者支援システム
- ▶ 人工衛星からの同報データを用いた防災システム
- ▶ 災害時の情報空白期における避難情報の確達性を向上させる防災システム
- ▶ 宇宙状況監視システム(SSA) のデュアルユースシステムアーキテクチャ
- ▶ 宇宙インフラ活用人材育成のための大学連携国際教育プログラム

3 研究スタイル

SSD Lab.は、博士学生4名、修士学生11名、研究員11名と教員で研究やプロジェクトを推進しており、日吉キャンパス西別館にあるデザインラボで毎週月曜日の午前中に全体ミーティングを行うほか、隔週土曜日の午後

博士学生とゲストスピーカーを中心としたPh.D.セミナーを行っています。また、興味分野によってその知識とスキルを深めるためのセミナーやSpecial Interest Group (SIG) 活動も行っています。



デザインスペースでの定例ミーティング



ワークショップのファシリテーション



テレビ会議による欧州宇宙機関やアジア防災機関との国際調整



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management